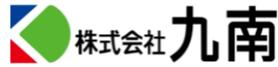




三股町



株式会社 九南

NISSAN

2021年7月8日

三股町、九南、日産自動車、電気自動車を活用し防災力強化と脱炭素化に向けて連携 ～『ブルー・スイッチ』137件目、電気自動車を活用した「災害連携協定」を締結～

三股町(宮崎県北諸県郡三股町、町長:木佐貫 辰生)と、株式会社 九南(本社:宮崎県都城市都北町、社長:黒川 浩之、以下:九南)、日産自動車株式会社(本社:神奈川県横浜市西区、社長:内田 誠)、宮崎日産自動車株式会社(本社:宮崎県宮崎市花ヶ島町、社長:松田 安典)および株式会社日産サテオ宮崎(本社:宮崎県宮崎市大塚町、社長:平澤 淳之助)の5者は、8日、電気自動車を活用した「災害連携協定」を締結しました。

本協定は、三股町で災害による停電が発生した際、九南が営業車として所有している電気自動車(EV)「日産リーフ」と、日産の販売会社から貸与する電気自動車(EV)「日産リーフ」を電力源とした災害時の電力供給体制の構築と、EVの「走る蓄電池」としての価値の普及を目的とした協定で、ゼロ・エミッション社会の実現を目指す日産の『ブルー・スイッチ』活動としては137件目の取り組みとなります。

【協定の経緯・背景】

三股町は、環境対策や、防災対策に取り組んでいるほか、持続可能で強靱なまちづくりを目指し、SDGs 推進にも積極的に取り組んでいます。

九南は、「電気の持つ力を通して、人と暮らしの未来を創造する。」という企業理念のもと、人と電気の架け橋として、豊かな社会の実現に向けて取り組んでいます。

一方、日産自動車は、EV ならではの新たな価値やワクワクを提供し続けるとともに、2018年5月より、EV の普及を通じて、環境、防災、エネルギーマネジメント、観光、過疎などの地域課題解決を目指す、日本電動化アクション『ブルー・スイッチ』を、全国の自治体や企業、販売会社と共に推進しています。また、2030年代早期には、主要市場で投入する新型車すべてを電動車両にすることを宣言、電動化をリードしながら、SDGs の達成やカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを加速しています。

この日産自動車が進める『ブルー・スイッチ』、三股町が進める環境・防災対策やSDGsの推進、そして九南の「電気を通じて豊かな人間社会の実現を目指す活動」と、それぞれの取り組みに相互が賛同し、本協定の締結を行う運びとなりました。



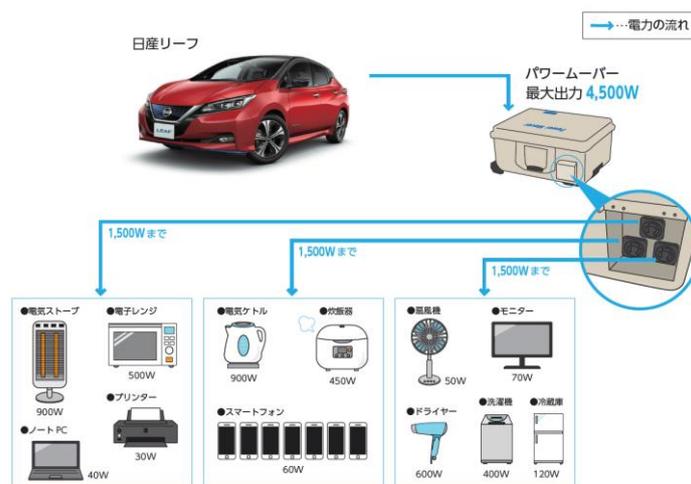
三股町



【協定の概要と主な連携内容】

電気自動車を活用した「災害連携協定」の概要は、以下の通りです。

- 三股町で災害を起因とする停電が発生した際、町が指定する避難所等に、九南が所有する電気自動車(EV)「日産リーフ」と、日産の販売会社の店舗に配備している電気自動車(EV)「日産リーフ」を無償で貸与し、EVからの給電により、災害時にも避難所等で継続して電力が供給できる体制を整え、町民の生命及び身体の安全を守る。
- 三股町、九南、および日産自動車、宮崎日産自動車、株式会社日産サテオ宮崎は、平常時も電気自動車(EV)の普及促進を行うほか、町のイベントで使用する電力を電気自動車(EV)から供給することで、電気自動車の「走る蓄電池」としての活用を町民へ積極的にアピールし、環境・防災意識向上を目指す。



災害発生時の「日産リーフ」からの電力供給イメージ図

三股町は、令和2年度に、公用車として電気自動車「日産リーフ」2台や、電気自動車から電気を取り出す可搬型給電器(2台)を導入しており、これらの積極的な活用を図ることで、環境・防災力向上に努めていきます。

三股町、九南、日産自動車グループは、本協定締結を機に、電気自動車(EV)を活用した、環境に優しく災害に強い持続可能なまちづくりを推進し、美しい自然環境を未来に残すため、EVの普及を通じた地域課題の解決、脱炭素化社会実現、SDGs達成に向けて、更に連携を強化してまいります。

以上